

研究成果: CBD サプリメントは日本人のてんかん発作を抑制

臨床カンナビノイド学会理事らによる研究チームが国内初の調査結果を学術誌にて報告

概要: 一般社団法人日本臨床カンナビノイド学会副理事長の正高佑志医師(一般社団法人 Green Zone Japan) と同学会理事長の太組一朗医師(聖マリアンナ医科大学)らの研究チームは、国内の CBD サプリメントを使用中の難治てんかん患者・家族を対象とした匿名のオンライン調査を実施し、その安全性や有効性について初めて明らかにしました。本研究成果は 2022 年 12 月発行の”Neurology Asia”に掲載され、以下の URL から無料で参照頂けます。

[https://www.neurology-asia.org/articles/neuroasia-2022-27\(4\)-891.pdf](https://www.neurology-asia.org/articles/neuroasia-2022-27(4)-891.pdf)

研究背景: 大麻草に含有される成分の一種であるカンナビジオール(CBD)は現在、難治てんかんの治療薬として国内で治験が実施されていますが、同成分はサプリメントとして日本国内で先行して流通し、一部の患者が医療目的に使用しています。これらの安全性や有効性についての評価は過去に行われたことがありませんでした。

方法: 2021 年 6 月に CBD を服用している難治性てんかん患者家族 38 名にオンライン自記式質問票を送付し、回答を依頼しました。

結果: 38 名中 28 名から回答が得られました。診断として最も多かったのはウエスト症候群(7 名)でした。15 名(53.6%)の患者が発作頻度の減少を報告し、そのうち 2 名(7.1%)では発作が完全に消失していました。患者の診断名や発作型と治療効果の間に有意な相関は認められませんでした。

9 名の患者(32.1%)になんらかの有害事象が認められましたがいずれも軽度であり、有害事象を理由に CBD を中止した例はありませんでした。CBD 摂取量の中央値は 12.0 mg/kg/day でした。

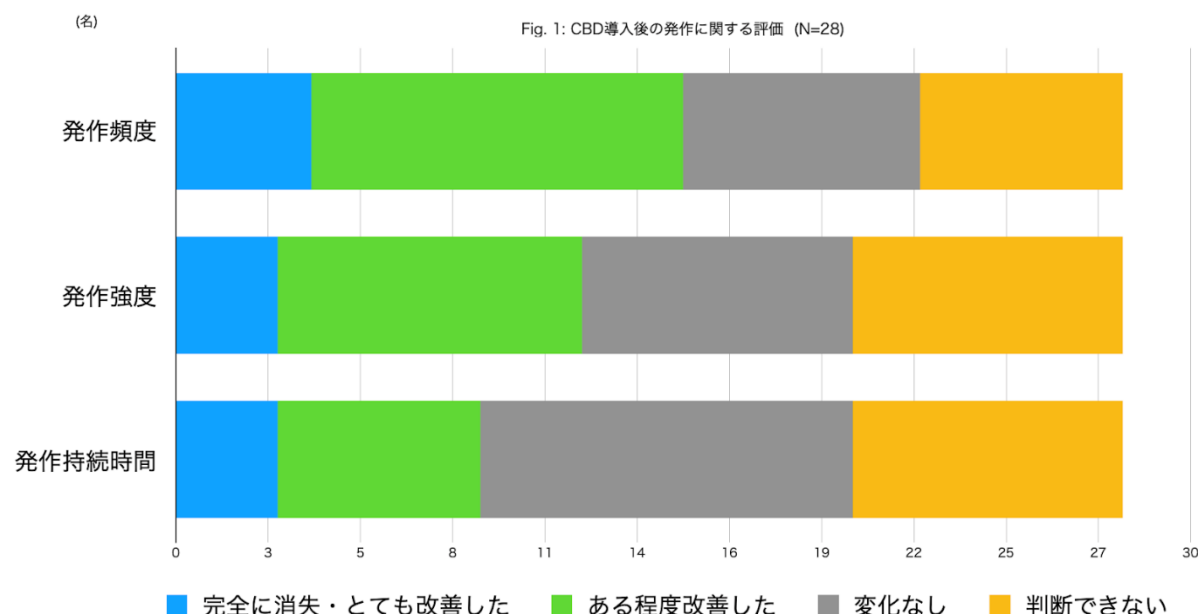
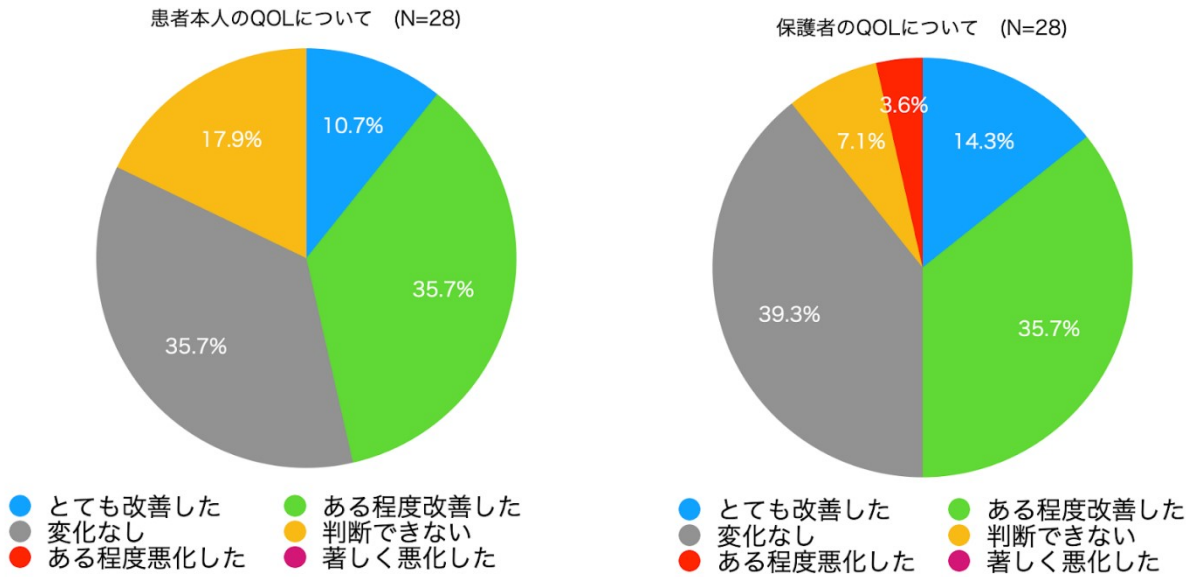


Fig.2: CBD導入後の生活の質（QOL）に関する評価



本研究成果の意義:

これは日本国内で流通している CBD サプリメントがてんかん発作抑制に有効であることを示した初めての横断調査であり、日本人を含むアジア人種にとっても CBD が効果的であることを示唆する結果です。

また現在国内で進行中の CBD 医薬品(Epidiolex®) 治験対象はドラベ症候群、レノックス・ガストー症候群、結節性硬化症に伴う難治てんかんに限られていますが、本調査はその他の難治てんかん患者にとっても、CBD が有効な治療選択肢となる可能性を示唆するものです。

研究責任者プロフィール:

正高佑志(まさたかゆうじ)1985 年生まれ。熊本大学医学部医学科卒。医師。日本臨床カンナビノイド学会副理事長。大麻についての啓発団体”一般社団法人 Green Zone Japan”代表理事。2020 年に大麻由来のサプリメント(CBD オイル)が国内の難治てんかん症例に有効であったことを学術的に報告し、国内での治験に向けた取り組みの端緒を開いた。著書に「お医者さんがする大麻と CBD の話(彩図社 2021 年)」がある。

掲載論文についての詳細:

タイトル:Cannabidiol supplement reduces epileptic seizures in the Japanese population: Cross-sectional study for intractable epilepsy patients

著者: 正高佑志(研究責任者)、杉山岳史、太組一朗、山本仁

掲載誌:Neurology Asia

発行:ASEAN Neurological Association

ISSN:(ISSN 1823-6138)

URL: [https://www.neurology-asia.org/articles/neuroasia-2022-27\(4\)-891.pdf](https://www.neurology-asia.org/articles/neuroasia-2022-27(4)-891.pdf)